

# ハナスバ 2017 [9月]

FUKUI  
ART  
CULTURE  
FORUM

## 境界とともに生きるということ。

ドキュメンタリー映画『記憶との対話～マイノリティ・トラベル、10年目の検証～』から考える一

「わたし」と「あなた」の間にある

「境界」を考える1年。

-2016年、『境界』を『越える』ことを改めて考えたい-

ハナスバ2016は所属や立場を越えて人がつながれば新たなアクションが生まれるだろうと考え、各回さまざまな切り口で出会いと対話の場をつくってきました。

人と人の間の「境界」を「越える」ことは、相手を知ることからまず始まる。

「わたし」は「あなた」の常識に揺さぶられながら「わたし」は「あなた」を知っていく。

「わたし」はすぐ隣にいる「あなた」を思い、「あなた」は「わたし」を思う。

「わたし」を生きるのではなく「あなた」を生きる。

ハナスバ2017は『「あなた」を生きることができるのか、できないのか』を問い続けます。

話す編

9.23 [土・祝]  
17:30-

映画上映と対話(てつがくカフェ)  
ファシリテータ:西村高宏

聴く編

9.24 [日]  
13:30-

映画上映・レクチャー・トーク  
ゲスト:縦山智子、長津結一郎、北山知春、酒井晴美

会場:福井市民福祉会館 4F ボランティアルームA・B (フェニックス・プラザ内)  
資料代:各日1,000円(両日参加の方は1,500円)

お申し込み・お問合せは  
裏面に記載

### 映画「記憶との対話」について

福井市出身の作曲家、縦山智子の呼びかけで2005年に立ち上げられたマイノリティ・トラベルは、2005年から2006年にかけて演出家の羊屋白玉(指輪ホテル)とプロデューサーの三宅文子をクリエイティブ・チームに迎えて「東京境界線紀行」プロジェクトを実施し、社会における〈障害〉の概念に疑問を投げかける表現活動を行った。東京で様々なマイノリティ性を自覚する人々を公募し、メンバーそれぞれの文脈を訪ねあう〈旅〉を通して、観客と一緒にアイデンティティの境界線を行き来する舞台作品が創られた。

どこからどこまでが〈障害〉で、どこからどこまでが〈健常〉なのか。その線はどこにあって誰の当たり前なのか。舞台作品「東京境界線紀行『ななつの大罪』」が提起した問題を、再び現代に投げかけたい思いから、10年前の活動を掘り起こし、当時関わった人々やそれらを取り巻く社会の10年間の追うドキュメンタリー映画制作へ至った。昨年各地で上映会が行われ、上映後にテーマについて対話するトークイベントを重ねている。北陸では初めての開催。

監督 = 佐々木誠 / 61分 / 2016年

製作 = マイノリティ・トラベル・クロニクル実行委員会

